

中学校 学級経営

中学校における規律ある集団づくりに関する研究  
ー規範意識の醸成を図るためのモラルスキルトレーニングを通してー

教育相談課 研究員 佐々木 大 輔

要 旨

中学校において規律ある集団をつくるために、規範意識の醸成が必要であると考え、モラルスキルトレーニングを用いたプログラムを実施し、その効果を検証した。その結果、「規範意識尺度」、規範意識尺度の下位尺度である「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」において有意差が認められた。今回のプログラムにより、規範意識が醸成され規律ある集団をつくるための一つの手だてとして、モラルスキルトレーニングが有効であることが示唆された。

キーワード：中学校 規範意識 モラルスキルトレーニング

I 主題設定の理由

平成18年12月、教育基本法が60年ぶりに改正され、「学校においては教育の目標が達成されるよう…(中略)…教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずることを重視して行われなければならない」ことが明記された。また、「学校内の規律の維持とこれを通じた児童生徒の規範意識の醸成という観点から、生徒指導の在り方を見直していくこと」(「新・児童生徒の問題行動対策重点プログラム」 文部科学省、2005)の必要性が指摘され、学校で規律や規範が重要な課題として取り上げられた。さらに、加治佐(2001)は学校の日常生活で生徒が守るべき校則について「校則があったことで自分にとってプラスに作用した面」を調査したところ、5人に1人が「社会の規則を守る態度が養われた」「基本的生活習慣が身についた」「規則正しい生活ができるようになった」などと答えている結果が得られた。このことから、校則を守ることで社会のきまりを守ることに繋がっている部分があると言える。

一方、文部科学白書(2008)では、平成19年度の暴力行為の発生件数は約5万3千件とすべての学校種で過去最高であり、同年度のいじめの認知件数も約10万件と相当数に上ったことが報告された。また、青少年白書(2008)によると、平成19年に不良行為少年として補導された20歳未満の者は約155万人に上ったことまた「少年非行が増加しているか」という問いに対し、【増えている】と答えた割合が、「かなり」、「ある程度」を併せて93%強を示していることなどから学校を取り巻く状況が厳しいことがうかがえる。また、「低年齢少年の価値観等に関する調査」(総務庁 青少年対策本部編、2000)では、全国の小学校4年生から中学校3年生(3,000人)、保護者(3,000人)にアンケートを行い、低年齢少年の価値観、生活実態、規範意識について調査を行った結果、規範意識は非行規範(タバコを吸う、髪を染める)や犯罪規範(万引きをする、器物損壊する)に対するものが高く、日常規範(ゴミを道に捨てる、授業中勝手に席を離れる)に対するものが低いこと、日常規範は小学生に比べ総じて中学生が低いことが明らかになった。

このような状況では、「学校においては、日常的な指導の中で、教師と児童生徒との信頼関係を築き、すべての教育活動を通じて規範意識や社会性をはぐくむ、きめ細かな指導を行うとともに、問題行動への対応については、まず第一に未然防止と早期発見・早期対応に取り組むことが重要です」(「文部科学白書」文部科学省、2009)とあるように、問題行動を未然防止することが大切である。しかし、未然防止には教職員が問題行動に対する危機感や成果を実感しづらいという面があるため、継続して行うことが難しいなどの課題もあるが、集団を規律あるものにするためには、未然防止の取組を積極的に進めていく必要がある。

本来、生徒指導とは、「こどもに自己決定の場を与えること」「自己存在感を与えること」「共感的理解を基盤にすること」の三つの機能を生かし、生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。これは、単なる問題行動への対応にとどまる消極的な生徒指導ではなく、未然防止につながる積極的な生徒指導である。従って、「生徒指導の充実について学校においては、日常的な指導の中で、児童生徒一人一人を把握し、性向等についての理解を深め、すべての教育活動を通じて生徒の自己指導能力の育成を行うことが必要である

（「問題行動を起こす児童生徒に対する指導について」 文部科学省 通知，2007）。つまり，規律や規範を逸脱した生徒への指導はもちろんであるが，すべての生徒に自ら判断させたり考えさせたりする活動を通して，集団や社会がよりよく機能するために規律や規範がなぜ必要なのかを教える必要がある。

そこで，規律ある集団をつくるために実際の道徳的な場面を想定し，その場面で自分がどのように考え行動するかを体験させると同時に，規律や規範の必要性に関する多様な見方に触れることで道徳的価値についての実感を伴った理解を養うことができるモラルスキルトレーニングを，継続的に活用する授業を行うことが有効ではないかと考えた。

## II 研究目標

中学校において，きまりを守る学級集団をつくるためには，規範意識を醸成するモラルスキルトレーニングを実施することが有効であることを協力校での実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説

中学生を対象として，モラルスキルトレーニングを計画的・継続的に実施することで，規範意識が醸成され，規律ある学級集団を築くことができるであろう。

## IV 研究の実際とその考察

### 1 規範と規範意識について

文部科学省は「『児童生徒の規範意識を育むための教師用指導資料』（非行防止教室を中心とした取組）2006」の中で，規範を「人間が行動したり判断したりするときに従うべき価値判断の基準」とし，規範意識を「そのような規範を守り，それに基づいて判断したり行動しようとする意識」としている。具体的には，「自他の生命や権利を尊重し，自他を身体的にも傷つけてはいけない」又は「盗みをしてはいけない」などの社会的な基準を守り，その基準に基づいて規律ある行動をすることができることとしている。

また久世（1998）は，規範を「多くの者によって共有されている価値基準と，その実現のためにとられるべき行為の様式をさす」とし，「その規範が内面化されたもの」を規範意識としている。

そこで，本研究では上記を参考にし，生徒が「こうしてはならない」，「こうでありたい」という行動の基となる規範について「集団や社会が円滑に機能するために人間が下すべき望ましい判断，評価，行為の基準」とし，久世（1998）の考えと同様，「その規範が内面化されたもの」を規範意識とし研究を進めていきたい。

### 2 モラルスキルトレーニングについて

モラルスキルトレーニングは，上越教育大学の林泰成教授が提唱している道徳教育プログラムである。林（2008）は，「道徳の時間は正しい答えを出せる子供が，実際の場面では具体的な行動の仕方がわからず道徳的な行動ができない。だから，子供たちに具体的な行動をスキルとして教えることが必要だ」という考えに基づき，望ましい対人関係をつくるための技能としてのソーシャル・スキルに，道徳性を身に付けさせることを加味したモラルスキルトレーニングを提唱した。モラルスキルトレーニングは，「具体的な行動の指導になっていること」「道徳教育になっていること」を要件とし，「道徳的な場面で」「1人1人の生徒が道徳的にものごとを判断し」「具体的な行動を考え」「正しく行動する能力を身につける」手順を踏む。

検証授業は，生徒の規範意識の実態を考慮し，生徒がこれまで学校生活内外で経験してきたと思われる，悪いと思っていても「やってしまった場面」や「注意できなかった場面」，また「今後出会いそうな問題行動場面」での正しい行動の仕方を身に付けさせることを目標に実施した。以下は，授業の流れである。

表1 モラルスキルトレーニングを用いた授業の進め方について

学習内容	学習内容の詳細
I 資料の提示	まず，道徳資料を提示する。
II ペアインタビュー	資料の登場人物になり二人でインタビューしあう。ロールプレイングのウォーミングアップになっている。
III ロールプレイング1	ある場面を実際に演じる。この際シナリオ通りに演じるのではなくて状況設定だけで，本人の自由な役割の創造に任せる。
IV シェアリング	ロールプレイングの感想等を言い合いよい行動方法を強化し，悪い部分を修正する。
V メンタルリハーサル	別な場面をイメージさせ，その場での自分の行動を考えさせる。
VI ロールプレイング2	イメージしたものを再度演じる。IIIで身につけたスキルを般化するための作業である。
VII シェアリング	IVに同じ。
VIII 課題の提示	身につけたことを日常場面でするように課題を出す。

モラルスキルトレーニングにおけるロールプレイは、さまざまな場面を体験させたり自己決定の場を与えたりできる。つまり、道徳的な判断を下す必要がある場面で生徒がどのように思考し判断するかを、教師が実際に把握することができる。また、生徒が演じた内容を共感的理解を基盤にシェアリングすることで、道徳的に望ましくない感じ方や考え方、あるいは行為を修正し、よりよい行動を促す指導も可能である

### 3 プレテストの検証

#### (1) 規範意識尺度 (橘川, 2007)

ベネッセ教育研究所 (1996) による「規範感覚といじめ」のアンケート調査結果を参考に作成された尺度である。「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」、「他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為」、「明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為」の三つの下位尺度からなっている。合わせて23項目からなり、5件法で回答を求めるものである。本研究では生徒の学校内外での場面における規範意識の変容を見るために使用した。

#### (2) 社会的責任目標尺度 (中谷, 1996)

「社会的、対人的な協力や援助をしようとする目標」である向社会的目標と、「教室における明示的あるいは暗黙のルールを守り、規範に従おうとする目標」である規範遵守目標の二つの下位尺度からなっている。合わせて18項目からなり、5件法で回答を求めるものである。本研究では、上記の規範意識尺度では測ることが難しい、授業や学習面における規範の変容を見るために使用した。

### 4 プレテストの結果と考察

上記二つの尺度を、集団内での規範意識に対する実態の把握のために下位項目について点数化し、平均値を算出した。平均値の低い項目については、集団の特徴として規範意識の定着が弱いと考え、そこに焦点を当てたプログラムを実施する。表2、表3は5点満点中の平均値が低い順に質問項目を並べたものである。

#### (1) 規範意識尺度から

表2より下位尺度「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」が他の二つの尺度よりも低い数値を示しているものが多い。実験群の規範意識に関する特徴として「電車やバスのマナーに関すること」の質問項目四つ全てが平均値の低い項目に入っていること、同様に自転車の乗り方についても2項目すべてが平均値が低いことがあげられる。公共の場面でのマナーに関する規範意識が実態として低いということがうかがえる。法律に違反していることに関する意識はおおむね高い数値であるが、校則に関しても不要物の持ち込みや、服装違反に関するものの平均値が低かった。

#### (2) 社会的責任目標尺度から

表3より下位尺度のうち、授業でのきまりや学校のきまりを守ることを問う項目で他の項目よりも低い数値を示した。これは、授業中、教師が教室にいるときはきちんと授業を受けているが(他律的)、いない場合でもきちんとしようという(自律的)意識が薄れていることを意味している。

#### (3) 学級担任から見た生徒の実態から

学級担任から聞いた生徒の実態として、「男子は、その場の雰囲気流され行動する傾向がある。注意は素直に聞くものの長続きしないこともある」「女子は2学期に入ってから服装に軽微な違反が見られ、小さな問題行動が見られてきた」ということであった。プログラムを実施することで、規範意識を高めるとともに自分の考えをもち行動する

表2 規範意識尺度の調査結果 (1年A組 実験群)

質問項目	平均	下位尺度
14 電車やバスの中で携帯電話を話す	3.12	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
11 自転車や車道を二列になって走る	3.23	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
2 学校にマンガを持って行く	3.23	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
9 自転車で二人乗りをする	3.27	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
23 バスや電車に子供料金で乗る	3.50	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
22 学校に携帯電話を持っていく	3.58	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
15 決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校へ行く	3.62	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
6 電車やバスの席に直接座る	3.65	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
19 電車やバスでお年寄りに優先席を譲らない	3.96	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
21 図書館の本に書き込みをする	4.38	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
8 他人のカサをだまて使う	4.42	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
4 学校の衣類を盗んでいく	4.46	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
18 他人の自転車にだまて乗る	4.58	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
14 カンニングをする	4.62	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
13 髪を髪色に染めて学校に行く	4.62	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
9 夜十時を過ぎても帰らない	4.62	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
10 隨身用ナイフを持って歩く	4.65	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
7 学校にピアスをしていく	4.65	明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為
17 家で酒を飲む	4.77	軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為
20 学校の窓ガラスを割る	4.81	他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為
16 バイクの無免許運転をする	4.88	明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為
1 学校でタバコを吸う	4.88	明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為
12 万引きをする	5.00	明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為

表3 社会的責任目標尺度の調査結果 (1年A組 実験群)

質問項目	平均	下位尺度
15 自習時間ならば、友達とおしゃべりしてもいいと思います	3.31	規範遵守目標
9 友達とおしゃべりしたくなったときも、授業中は我慢するようにします。	3.65	規範遵守目標
18 学校のきまりは少しなら守らなくてよいと思います	3.69	規範遵守目標
17 人の悪口を言わないように気をつけます	3.85	規範遵守目標
7 教科書を忘れた人がいたら、自分のものを貸してあげようと思います	3.88	向社会的目標
10 授業中に寝てきても、授業の終わりまでは先生の話をよくきくようにします	4.00	規範遵守目標
8 友達に何か頼まれたら、それをやってあげようと思います	4.04	向社会的目標
6 勉強のわからない人には、教えてあげようと思います	4.04	向社会的目標
2 ケガをした人、具合の悪い人がいたら保健室に連れて行くことと思います	4.04	向社会的目標
14 授業で先生にやるように言われたことは、面倒でもちゃんとやるようにします	4.08	規範遵守目標
12 授業中は、他の人の迷惑にならないようにします	4.15	規範遵守目標
11 自分が罰にいたることがある問題がわからない友達がいいたら、その問題をとく手助けをしてあげようと思います	4.19	向社会的目標
4 えんぴつや消しゴムを忘れた人には、自分のものをかしてあげようと思います	4.23	向社会的目標
3 友達が怪かまっていたら、手助けしようと思います	4.23	向社会的目標
16 クラスで自分が受け持ったことはちゃんとやるようにします	4.27	規範遵守目標
11 めんどくさくとも、当分の仕事があるときには、それをちゃんとやるようにします	4.31	規範遵守目標
13 宿題をやらずに学校に行くことがあってもよいと思います	4.35	規範遵守目標

態度や、人とのかかわりの中で自分の意見を主張する態度も身に付けさせたいと考えた。

### 5 プログラム作成とその実践

以上の調査結果から、本研究における検証授業では、数値の低かった項目に関して道徳的価値を含む資料を用意し、モラルスキルトレーニングに必須の「具体的な行動の指導になっていること」「道徳教育になっていること」を満たして授業を展開することとした。

表2の規範意識尺度の質問項目、「自転車で二人乗りをする」(平均3.27)と「自転車で車道を二列になって走る」(3.23)の二つの項目に関連して『悩むタケン君(法律違反)』,「電車やバスの中で携帯電話で話す」(3.12)と「電車やバスでお年寄りに優先席を譲らない」(3.96)の二つの項目に関連して『それっていいの?(公共のマナー1)』,「電車やバスの床に直接座る」(3.65)と「バスや電車に子供料金で乗る」(3.50)の二つの項目に関連して『なぜ座ったらいけないの?(公共のマナー2)』,「学校にマンガを持っていく」(3.23),「学校に携帯ゲームを持っていく」(3.58)と「決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校へ行く」(3.62)の三つの項目に関連して『何で持ってきたの?(校則違反)』を設定した。また、表3の社会的責任目標尺度の質問項目「自習時間ならば、友達とおしゃべりしてもいいと思います」(3.31),「友達とおしゃべりしたくなったときも授業中は我慢するようにします」(3.65)の二つの項目に関連して『先生がいなくても(授業態度)』を設定した。

### 6 事前調査・事後調査における平均値の分析(t検定)の結果

生徒の変容を見るために「規範意識尺度」「社会的責任目標尺度」の事前・事後調査について両側のt検定をおこなった。下の表は、「規範意識尺度」「社会的責任目標尺度」におけるそれぞれの下位尺度並びにすべての質問項目についてのt検定の結果である。

#### (1) 規範意識尺度について

表4は、規範意識尺度の変化を示したものである。これによると、事前・事後の平均の差は1%水準で有意であった(両側検定:  $t(25) = -3.10$ ,  $p < .01$ )。また、下位尺度のうちで「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」(両側検定:  $t(25) = -3.10$ ,  $p < .01$ )においても1%水準で有意差が見られたが、これはこの下位尺度の12個の質問項目のうち8個を授業で取り上げたので、影響が色濃く出たと思われる。

表5は、規範意識尺度の各質問項目毎の変化を示したものである。これによると、事前調査で他の質問項目に比べて相対的に平均値が低く、モラルスキルトレーニングを用いた授業で題材の中に取り入れた9個すべての質問項目について、事前・事後の平均の差は1%水準で有意であった(質問項目14「電車やバスの中で携帯電話で話す」

両側検定:  $t(25) = -4.92$ ,  $p < .01$ ,

質問項目11「自転車で車道を二列になって走る」両側検定:  $t(25) = -6.87$ ,  $p < .01$ , 質問項目2「学校にマンガを持って行く」両側検定:  $t(25) = -4.46$ ,  $p < .01$ , 質問項目5「自転車に二人乗りをする」両側検定:  $t(25) = -3.83$ ,  $p < .01$ , 質問項目23「バスや電車に子ども料金で乗る」両側検定:  $t(25) = -4.61$ ,  $p < .01$ , 質問項目22「学校に携帯ゲームを持っていく」両側検定:  $t = -4.14$ ,  $p < .01$ , 質問項目23「決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校に行く」両側検定:  $t(25) = -3.64$ ,  $p < .01$ , 質問項目「電車やバスの床に直接座る」両側検定:  $t(25) = -4.87$ ,  $p < .01$ , 質問項目19「電車や

表4 規範意識尺度の変化

	人数	事前		事後		t値	自由度	有意差
		平均	標準偏差	平均	標準偏差			
規範意識尺度	26	96.50	0.96	105.92	0.62	-3.10	25	**
軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為	26	45.65	1.03	54.19	0.67	-4.31	25	**
他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為	26	31.42	0.70	32.46	0.56	-1.32	25	n.s.
明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為	26	19.42	0.51	19.27	0.45	0.37	25	n.s.

\*\*<.01 .10≤n.s.

表5 規範意識尺度の各質問項目毎の変化

	人数	事前		事後		t値	自由度	有意差
		平均	標準偏差	平均	標準偏差			
14 電車やバスの中で携帯電話で話す	26	3.12	0.99	4.35	0.69	-4.92	25	**
11 自転車で車道を二列になって走る	26	3.23	0.82	4.54	0.82	-6.87	25	**
2 学校にマンガを持っていく	26	3.23	0.86	4.35	0.94	-4.46	25	**
5 自転車に二人乗りをする	26	3.27	0.87	4.19	0.85	-3.83	25	**
23 バスや電車に子供料金で乗る	26	3.50	0.95	4.54	0.85	-4.61	25	**
22 学校に携帯ゲームを持っていく	26	3.58	1.03	4.62	0.65	-4.14	25	**
15 決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校へ行く	26	3.62	0.94	4.42	0.86	-3.64	25	**
6 電車やバスの床に直接座る	26	3.65	1.02	4.73	0.75	-4.87	25	**
19 電車やバスでお年寄りに優先席を譲らない	26	3.96	0.82	4.77	0.64	-4.20	25	**
21 図書館の本に書き込みをする	26	4.38	0.75	4.65	0.49	-1.66	25	n.s.
8 他人のカサをだまて使う	26	4.42	0.70	4.42	0.70	0.00	25	n.s.
4 学校に化粧をしていく	26	4.46	0.71	4.58	0.64	-0.65	25	n.s.
18 他人の自転車にだまて乗る	26	4.58	0.58	4.58	0.58	0.00	25	n.s.
13 カンニングをする	26	4.62	0.64	4.54	0.65	0.42	25	n.s.
9 髪を茶色に染めて学校に行く	26	4.62	0.64	4.54	0.76	0.40	25	n.s.
3 夜十二時を過ぎても帰らない	26	4.62	0.70	4.65	0.69	-0.20	25	n.s.
10 護身用にナイフを持ち歩く	26	4.65	0.63	4.58	0.64	0.44	25	n.s.
7 学校にピアスをしていく	26	4.65	0.69	4.62	0.70	0.20	25	n.s.
17 家で酒を飲む	26	4.77	0.51	4.69	0.55	0.49	25	n.s.
20 学校の窓ガラスを割る	26	4.81	0.49	4.92	0.27	-1.00	25	n.s.
16 バイクの無免許運転をする	26	4.88	0.59	4.88	0.33	0.00	25	n.s.
1 学校でタバコを吸う	26	4.88	0.43	4.85	0.37	0.37	25	n.s.
12 万引きをする	26	5.00	0.00	4.92	0.27	1.44	25	n.s.

\*\*<.01 .10≤n.s.

バスでお年寄りに優先席を譲らない」両側検定：  $t(25) = -4.20, p < .01$ 。それに対し、授業で取り上げなかった質問項目では14個すべての質問項目について有意差はなかった。

(2) 社会的責任目標尺度について

表6は、社会的責任目標尺度の変化を示したものである。これによると下位尺度「向社会的目標」「規範遵守目標」も含めて有意な差は認められなかった。

表7は、社会的責任目標尺度の各質問項目毎の変化を示したものである。これによると、事前調査で他の質問項目に比べて相対的に平均値が低く、モラルスキルトレーニングを用いた授業で題材の中に取り入れた2個の質問項目のうち、質問項目15「自習時間ならば友達とおしゃべりしてもいいと思います」について、5%水準で有意差が認められた（両側検定： $t(25) = -2.12, p < .05$ ）。しかし、授業で取り上げた質問項目9「友達としゃべりたくなったときも、授業中はがまんするようにします」並びに、事前調査の平均値が相対的に高く授業で取り上げなかった質問項目については、有意差は認められなかった。

表6 社会的責任目標尺度の変化

	事前		事後		t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	平均			
社会的責任目標尺度	26	72.46	0.96	74.96	0.86	-0.88	25 n.s.
向社会的目標	26	32.81	0.81	33.42	0.80	-0.50	25 n.s.
規範遵守目標	26	39.65	1.06	41.54	0.90	-0.98	25 n.s.

.10 ≤ n.s.

表7 社会的責任目標尺度の各質問項目毎の変化

	事前		事後		t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	平均			
9 友達としゃべりたくなったときも、授業中はがまんするようにします	26	3.65	1.02	3.77	0.99	-0.39	25 n.s.
15 自習時間ならば、友達とおしゃべりしてもいいと思います	26	3.31	1.26	4.00	0.94	-2.12	25 *
1 1がっかりしている人がいたら、なぐさめたり、はげましたりしたいと思います	26	4.15	0.73	4.15	0.78	0.00	25 n.s.
2 けがをしたり、ぐあいの悪い人がいたら、保健室に連れて行こうと思います	26	4.04	0.60	4.27	0.78	-1.14	25 n.s.
3 友達が何かこまっていたら、手助けしようと思います	26	4.23	0.99	4.35	0.8	-0.46	25 n.s.
4 えんぴつや消しゴムを忘れた人には、自分のものをかきあげようと思います	26	4.23	0.76	4.19	0.85	0.19	25 n.s.
5 自分が前にいたことがある問題がわからない友達にいたら、その問題をどく手助けをしてあげようと思います	26	4.19	0.85	4.23	0.59	-0.19	25 n.s.
6 勉強のわからない人には、教えてあげようと思います	26	4.04	0.92	4.08	0.89	-0.15	25 n.s.
7 教科書をわすれた人がいたら、自分のものを貸してあげようと思います	26	3.88	0.82	4.19	0.98	-1.40	25 n.s.
8 友達から何かをたのまれたら、それをやってみようと思います	26	4.04	0.77	3.96	0.77	0.40	25 n.s.
10 授業につかれてきても、授業の終わりは先生の話をよく聞くようにします	26	4.00	0.89	3.81	1.06	0.68	25 n.s.
11 めんどくさくても、当分の仕事があるときには、それをちゃんとやるようにします	26	4.31	0.88	4.58	0.58	-1.27	25 n.s.
12 授業中は、他の人のじやまにならないようにします	26	4.15	1.01	4.31	0.93	-0.56	25 n.s.
13 宿題をやらずに学校に行くことがあってもいいと思います	26	4.35	1.16	4.27	0.88	0.27	25 n.s.
14 授業で先生にやられるように言われたことは、めんどくさくてもちゃんとやるようにします	26	4.08	1.09	4.46	0.76	-1.41	25 n.s.
16 クラスで自分が受け持ったことはちゃんとやるようにします	26	4.27	1.04	4.38	0.75	-0.53	25 n.s.
17 人の悪口を言わないようにします	26	3.85	0.78	3.73	1.04	0.50	25 n.s.
18 学校のきまりはずこくらしいなら守らなくていいと思います	26	3.69	1.12	4.23	0.76	-1.90	25 n.s.

\* < .05 .10 ≤ n.s.

(3) 実験群と統制群の事前調査・事後調査についての t 検定の結果

実験群で有意差が認められた規範意識尺度の9項目すべてと、社会的責任目標尺度の2項目中1項目について、授業を行わなかった学級（統制群）と比較し、有意差があるか確かめるため両側の t 検定を行った。下の表はその結果である。

① 規範意識尺度の9個の質問項目における実験群と統制群の事前調査について

表8は、授業で取り上げた9個の質問項目についての事前調査における、実験群と統制群の平均値を表したものである。この結果、実験群と統制群の間には有意差が認められなかった。

表8 授業で取り上げた規範意識尺度の項目についての事前調査における実験群と統制群の t 検定の結果

	実験群			統制群			t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差			
14 電車やバスの中で携帯電話で話す	26	3.12	0.99	26	3.23	1.24	-0.37	50 n.s.	
11 自転車で車道を二列になって走る	26	3.23	0.82	26	3.23	0.95	0.00	50 n.s.	
2 学校にマンガを持っていく	26	3.23	0.86	26	3.62	0.90	-1.58	50 n.s.	
5 自転車で二人乗りをする	26	3.27	0.87	26	3.38	1.10	-0.42	50 n.s.	
23 バスや電車で子供料金で乗る	26	3.50	0.95	26	3.58	1.03	0.28	50 n.s.	
22 学校に携帯ゲームを持っていく	26	3.58	1.03	26	3.85	0.88	-1.00	50 n.s.	
15 決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校へ行く	26	3.62	0.94	26	3.92	0.98	-1.12	50 n.s.	
6 電車やバスの床に直接座る	26	3.65	1.02	26	3.42	1.06	0.80	50 n.s.	
19 電車やバスでお年寄りに優先席を譲らない	26	3.96	0.82	26	3.81	1.06	0.61	50 n.s.	

.10 ≤ n.s.

② 規範意識尺度の9個の質問項目における実験群と統制群の事後調査について

表9は、授業で取り上げた9個の質問項目についての事後調査における、実験群と統制群の平均値を表したものである。この結果、実験群と統制群の間にはすべての質問項目で1%水準で有意差が認められた。

表9 授業で取り上げた規範意識尺度の項目についての事後調査における実験群と統制群の t 検定の結果

	実験群			統制群			t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差			
14 電車やバスの中で携帯電話で話す	26	4.35	0.69	26	3.27	1.04	4.40	50 **	
11 自転車で車道を二列になって走る	26	4.54	0.82	26	3.19	0.90	3.55	50 **	
2 学校にマンガを持っていく	26	4.35	0.94	26	3.62	1.06	2.63	50 **	
5 自転車で二人乗りをする	26	4.19	0.85	26	3.50	0.95	2.77	50 **	
23 バスや電車で子供料金で乗る	26	4.54	0.85	26	3.58	1.17	2.17	50 **	
22 学校に携帯ゲームを持っていく	26	4.62	0.65	26	4.08	1.20	4.00	50 **	
15 決まりよりサイズの大きいズボンや短いスカートで学校へ行く	26	4.42	0.86	26	3.50	1.07	2.29	50 **	
6 電車やバスの床に直接座る	26	4.73	0.75	26	3.46	0.95	3.89	50 **	
19 電車やバスでお年寄りに優先席を譲らない	26	4.77	0.64	26	3.65	1.02	3.26	50 **	

\*\* < .01

③ 社会的責任目標尺度の1個の質問項目における実験群と統制群の事前調査について

表10は、授業で取り上げた2個の質問項目のうち事前・事後調査で有意差が認められた「自習時間な

らば、友達とおしゃべりしてもいいと思います」についての事前調査における実験群と統制群の平均値を表したものである。この結果、実験群と統制群の間には有意差が認められなかった。

表10 授業で取り上げた社会的責任目標尺度項目についての事前調査における実験群と統制群のt検定の結果

	実験群			統制群			t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差			
15 自習時間ならば友達とおしゃべりしてもいいと思います	26	3.31	1.26	26	3.62	1.17	-0.91	50	n.s.

.10 ≤ n.s.

④ 社会的責任目標尺度の1個の質問項目における実験群と統制群の事後調査について

表11は、「自習時間ならば友達とおしゃべりしてもいいと思います」についての事後調査における実験群と統制群の平均値を表したものである。この結果、実験群と統制群の間には5%水準で有意差が認められた。

表11 授業で取り上げた社会的責任目標尺度項目についての事後調査における実験群と統制群のt検定の結果

	実験群			統制群			t値	自由度	有意差
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差			
15 自習時間ならば友達とおしゃべりしてもいいと思います	26	4.00	0.94	26	3.54	0.71	-0.91	50	*

\* < .05

7 振り返りカードから

生徒には毎回授業の終わりに振り返りカードを記入させた。内容は役割演技を実際にしたり見たりしての感想や、授業で分かったことなどが中心であった。6時間の検証授業後に「今回の授業を通して、きまりについて考えたこと、気づいたこと」を記入させた。以下はその記述である。

「人が嫌がっていることに気づかずにやることはよくないと思った。実際に演技してみてどれだけマナー違反やきまりを守らないことが人に迷惑をかけているかが分かった」、「今まできまりをあまり気にしていなかったけれど、すごく大切なものであることが分かった」、「マナーやきまりがとても大事だと改めて気づかせてもらった。マナー違反やきまりを守らない人に注意する勇気ももらった」、「マナーやきまりを守ることは気持ちの問題だと思った」、「きまりやマナーについて初めて分かったこともあった」など、生徒自身が今までの行いを振り返るとともに、きまりやマナーの重要性を再認識した内容を具体的に書いている生徒が多く見られた。

8 担任並びに学年主任から見た生徒の変容

プログラム実施後、協力学級の学級担任、また学年主任から聞いた生徒の変容を、以下に記載する。

- ・プログラム実施前は、平気で廊下に座っていた生徒がいたがその数が減少した。
- ・特に男子が、きまりやマナーについて自分たちで注意し合えるようになった。
- ・女子は、服装の違反が減ってきている。
- ・今まで以上に授業に集中しているように見受けられる。
- ・普段の授業では消極的だった数人の男子が、ロールプレイやシェアリングでは積極的に発言していた。モラルスキルトレーニングでの発表や発言が教科やその他の教育活動にもつながり、生徒にとって自信につながっているのではないかとと思われる。

9 考察

(1) 規範意識尺度の結果から

実験群での事前、事後調査の分析の結果から有意差のあった下位尺度「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」及び9個の質問項目についてモラルスキルトレーニングを用いた授業後に分析を行ったところ、事前調査の段階では有意差がなかった実験群と統制群に有意差があらわれた。このことから、モラルスキルトレーニングを用いた授業が規範意識の向上に有効であることが示唆された。生徒は、自分ではたいたことではないと思ったことがきまりを破ることであったり、マナー違反だったりすることをモラルスキルトレーニングを通して理解できたのではないかと考えられる。その他の下位尺度「他人を巻き込み他人に損害を与えるような規範を破る行為」、「明らかに中学生として規範を破っているとわかる行為」に有意差が認められなかったのは、前述の先行研究の結果と同様、実験群の非行規範（タバコを吸う、髪を染める）や犯罪規範（万引きをする、器物損壊する）に対する規範意識がもともと高い傾向にあったため、数値をはっきりした形で上昇させることができなかったのではないかと考える。

(2) 社会的責任目標尺度の結果から

実験群において相対的に平均値が低かった質問項目「自習時間ならば友達とおしゃべりしてもいいと思います」について、規範意識尺度と同様、実験群の事前事後の比較、統制群との比較において有意差が認められた。これらもモラルスキルトレーニングの効果であると考えられる。また、本尺度において、2個の下位尺度「向社会的目標」「規範遵守目標」ともに事前事後の調査に有意差が認められなかったのは、事前調査の段階で平均値が高かったことやこの尺度を題材にした授業が1時間しかなかったことが原因であると考えられる。

### (3) モラルスキルトレーニングの効果

振り返りカードの内容から、モラルスキルトレーニングを用いた授業で身に付けたことを確認し、よりよい生活を築いていこうという生徒の意欲が感じられた。

また、学級担任並びに学年主任からは、「事前事後の調査の数値的な変化だけでは知ることのできない生徒の変容を感じる事ができた」「生徒のきまりやマナーへの対応の仕方が単なる理解にとどまらず行動になって表れてきている」という感想が寄せられた。これは、生徒がモラルスキルトレーニングのロールプレイを行う際に、他の人の考えに合わせるのではなく自分がその立場だったらどうするかを考えたことが日常的な行動に結びついたものと考えられる。つまり、モラルスキルトレーニングを用いた授業プログラムを行うことによって、生徒たちが道徳的な場面で道徳的にものごとを判断し道徳的な行動を考えたことで、規範を守って校内外で生活しようという意識が高まったのではないかと推測される。また、検証授業があった日の帰りの学級活動で、他の事例を紹介したり生徒の感想を紹介したりと、検証授業に加えて場面場面できまりやマナーに関する問いかけを続けてくださった学級担任や学年主任の力も大きいと考えられる。そのことによって、今回のプログラムが今までの自分の生活を見つめ直し、よくなかったことは改善しよくできたことはさらに強化できるよい契機になったのではないかと思われる。

## V 研究のまとめ

本研究では、中学生に対し規範意識を醸成させることを目的としたモラルスキルトレーニングを用いた授業を実践することが、きまりやマナーを守る規律ある集団づくりに有効であるかどうかを検証した。その結果、

- ・「規範意識尺度」の得点の平均値を検定した結果、「規範意識尺度」並びに「規範意識尺度」の下位尺度「軽い気持ちで簡単にできる規範を破る行為」に有意差が認められ、規範意識の向上に効果が見られた。
- ・事前調査で「規範意識尺度」と「社会的責任目標尺度」のうち、相対的に平均値の低かった11項目についてモラルスキルトレーニングを用いた授業を行い、事前事後の得点の平均値を検定した結果、11項目中9項目が1%水準で、1項目が5%水準で有意差が認められた。
- ・実験群と統制群は事前調査では授業で取り上げた質問項目に有意差が認められなかったが、事後調査では有意差が認められ、モラルスキルトレーニングを用いた授業が規範意識を高め、規律ある集団づくりに有効であることが示唆された。

本研究では、実験群の生徒の規範意識が非行規範や犯罪規範で高い数値を示し、日常規範で低い数値を示したことから、日常規範中心のプログラムを作成し実践した。その結果、モラルスキルトレーニングを実践することで学校生活内外の生活において規範意識が向上することが明らかになった。規範意識の向上は学級がきまりやマナーを守って生活していこうという規律ある集団をつくるためには効果があると考えられる。

## VI 本研究における課題

本研究では6回の検証授業でモラルスキルトレーニングプログラムを実施したが、今後の課題として以下の点があげられる。

- ・プログラムが1ヶ月程度の期間に集中して行われたため、結果として規範意識は向上したかもしれない。しかし、それが一時的な可能性も否定できない。住谷（「児童生徒の規範意識醸成のための調査研究」2006）によると中学1年生から2年生にかけて規範意識が大きく低下することが示されている。本研究で授業の対象としたのは1年生であるので、今後一度身についた規範意識が低下していくことも十分に予想される。従って規範意識を定着させ内面化を図るためには、一時的なプログラムではなく中学校3年間を見通した指導計画が必要になってくると思われる。つまり、教育活動全体を通じて計画的・長期的に実施することが必要であると考えられる。

- ・授業後の振り返り用紙を記述式だけではなく、自己評価を数値化できるものも加える必要がある。そうすることにより1時間1時間の授業の理解度や定着度を測ることができ、計画的に実施する上で参考になると思われる。
- ・今回授業で取り上げた題材は、校内生活だけではなく校外生活にも関係するものであった。従って、今後生徒の規範意識をより高め規律ある集団をつくるためには、「規範意識は家庭における、しつけ、睡眠や食事等の基本的な生活習慣、又は家庭の手伝い等に関する教育を土台とし」（児童生徒の規範意識を育むための教師用資料 2010）とあるように、家庭との協力が重要であり、中学校での規範指導の情報を家庭に発信、共有する体制をつくる必要があると考える。

#### <引用文献>

- 加治佐哲也 2001 「中学校・高等学校の校則に関する調査」宮崎女子大学論文, pp.119-126,  
 久世敏男 1988 「現代青年の規範意識と私生活主義について」名古屋大学教育心理学論文, p.21,  
 林泰成編著 2008 『小学校道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』, pp.7-13, 明治図書出版社

#### <引用URL>

- 法なび法令検索 教育基本法条文  
<http://hourei.houreinavi.jp/hourei/H18/H18H0120.php> (2010.4.27)  
 文部科学省 2005 「新・児童生徒の問題行動対策重点プログラム」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/17/09/05092202/004.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/09/05092202/004.htm) (2010.4.26)  
 文部科学省 2008 「文部科学白書」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpaa200901/detail/1283506.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200901/detail/1283506.htm) (2010.4.26)  
 内閣府編 2008 「青少年白書(平成20年度版)」  
[http://www.8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h20honpenpdf/pdf/b1\\_sho3\\_2.pdf](http://www.8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h20honpenpdf/pdf/b1_sho3_2.pdf) (2010.4.22)  
 総務庁 青少年対策本部編 2000 「低年齢少年の価値観等に関する調査」  
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei.htm> (2010.4.22)  
 文部科学省 2009 「文部科学白書」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab200901/detail/1295628.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200901/detail/1295628.htm) (2010.4.26)  
 文部科学省 2007 「問題行動を起こす児童生徒に対する指導について(通知)」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/07020609.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/07020609.htm) (2010.4.23)  
 文部科学省 2006 「児童生徒の規範意識を育むための教師用指導資料(非行防止教室を中心とした取り組み)」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/05/06052417/001/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/05/06052417/001/002.htm) (2010.6.11)  
 住谷 孝明 2006 「児童生徒の規範意識醸成のための調査研究—児童生徒, 保護者, 教員への実態調査をもとにしての提言—」  
[http://www2.gsn.ed.jp/houkoku/2006c/06c30/pdf\\_file/06c30h.pdf](http://www2.gsn.ed.jp/houkoku/2006c/06c30/pdf_file/06c30h.pdf) (2010.12.11)

#### <参考文献>

- 石津健一郎 2006 「中学生のスクール・モラルを支える要因の検討」東北大学大学院教育学研究科原著論文  
 臼井茉莉 2007 「中学生における規範意識とそれに影響を与える要因」宇都宮教育大学大学院修士論文  
 小澤高嗣 1991 「児童の規範意識に関する研究—規範行動との関連を通して—」上越教育大学大学院修士論文  
 藤澤 文 2009 「規範意識はなぜ変容するのか」総合調査「青少年をめぐる諸問題」, p.221,  
 堀洋道監修 櫻井茂男 松井豊編 2007『心理測定尺度集IV』子供の発達を支える<対人関係・適応>サイエンス社  
 水野睦子 2009 「小学校高学年におけるモラル・スキル・トレーニングプログラムの開発的研究—規範意識と道徳的行動傾向の育成を目指して」上越教育大学大学院派遣研修生研究報告  
 文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導研究センター編 2008 『規範意識をはぐくむ生徒指導体制—小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ』